

災害時を想定した避難訓練

高梁北中学校 3年 熊本啓太
3年 藤井皓太

高梁北中学校で行った「防災意識アンケート」から、僕たちの防災意識の低さが分かりました。

アンケートの結果は、自分が住んでいる地域では大きな災害が起こらないだろうと考えている生徒は約25%、そのうち8割の人は地域の避難場所を知りませんでした。また、家庭で非常持ち出し袋を準備しているのはたったの9%でした。また、避難場所になっている高梁北中学校には非常食や毛布などの備蓄品がないこともわかりました。

このように、命を脅かす災害はいつ起きてもおかしくない状況なのに、僕たちの防災意識や避難の準備は十分ではないように感じます。

そこで、地域全体で、災害が起きたことを想定して、避難場所に避難する訓練を実施してみようというか。僕たちの防災意識も高まり、改善点も見つかると思います。いざという時に、被害が少しでも小さくなるのではないのでしょうか。

【答弁】 近藤市長

市内には119カ所の避難所があり、毛布や生活必需品などの備蓄品は、職員が常駐している市役所、各地域局、各地域市民センターに配備してあります。どこに何があるのかを皆さんに知っていただくことが大切だと思っています。

避難訓練については、地域の人と協力して考えていくことが大切です。他の地域では、いろいろな場合を想定した災害訓練を毎年行っている地域もあります。それぞれの地域で条件が違いますので、自分たちの住んでいる地域でどうすべきかを、みんなで考えることが一番大切なことだと思います。

危機意識が低いという中にあって、地域の住民の皆さんがその声を出していくのが一番早いと思いますし、大事なことだと思います。阪神淡路大震災でも言われたことですが、まずは自分の身は自分で守ること、それから周りの人、地域が助け合っていくということに繋がっていくばよいと思っています。

有漢地域で利用できるバス

有漢中学校 2年 吉田恵
2年 延原美由紀

高校生になると市内の学校に通うため、また、駅から電車に乗るために毎日バスを利用しますが、バスの本数が少なく、困るとい声をよく聞きます。私の姉は有漢から市内の高校に通っていますが、昼の時間帯のバスが少なく、部活がある時などは帰るのに何時間か待たなくてはならないそうです。私の周りでもバスの本数を増やして欲しいという声をよく聞きます。

高梁市内で同じようにバスの本数が少ない地域では、市営バスの他にふれあいバスが通っていると聞いたことがあります。例えば、そのふれあいバスを有漢までまわすなど、対応していただくと嬉しいですね。

バスの本数が増えたら、私たち学生でも、もっと利用できる環境が広がると思います。私自身、新しい図書館ができるの聞いてとても楽しみにしており、それらも利用しやすくなるのではないかと思います。このことについて何か対策があればお聞かせください。

【答弁】 近藤市長

市民の皆さんが利用する公共交通・交通手段の確保は、暮らしていく上で欠かせないものです。定期路線バスや生活福祉バス、小中学生のスクールバスなど、高梁市の公共交通の運行経費は、年間で約2億6千万円で毎年皆さんの公共交通を守るために使っています。

市では、備北バスの定期路線バスの利用率が低い路線について、生活福祉バスの運行を毎日ではなく、曜日を決めて運行しています。また、高校生の通学バス定期券の補助も行っていきます。こういった制度を活用しながら、公共交通を守っていくことが、充実をさせていこうと考えています。

公共交通の問題は、有漢地域のみにならず、市全体の話として考えていかなければなりません。そのため、工夫については、市やバス事業者の工夫であり、早急に考えていかなければならない課題だと認識をしています。市の今後の公共交通をどうするかなど、いろいろな方の意見を聞きながら検討していきます。

愛宕花火の来場者の減少

成羽中学校 3年 奥田紗代
3年 土師歩莉

高梁では備中松山踊りや備中神楽、愛宕花火、絵ぶた祭りなど、伝統的な芸能や行事が盛んですが、その中で、近年、愛宕花火の来場者が減少しているという話を聞き、淋しく感じています。

そこで、愛宕花火の来場者を増やすために、外国人観光客や女性客に注目してはどうかと考えました。①多言語でかかれたポスターの掲示と市ホームページへの転載 ②愛宕花火ツアーの企画 ③浴衣レンタル屋の開設 ④吹屋のゲストハウスへの滞在などをお勧めしたいです。

さらに、SNSで、愛宕花火の情報を発信することでネット情報、最新情報に敏感な女性客にアピールします。プロ野球広島カープが、女性客、いわゆる「カープ女子」の増加で大きな盛り上がりを見たことも記憶に残っています。

高梁市で「愛宕花火」を盛り上げるために、このような政策を実施していただけないでしょうか。



熊本 啓太 議員
(高梁北中学校)



藤井 皓太 議員
(高梁北中学校)



吉田 恵 議員
(有漢中学校)



延原 美由紀 議員
(有漢中学校)



近藤 隆則 高梁市長



平田 守 教育長
(11月8日時点)



奥田 紗代 議員
(成羽中学校)



土師 歩莉 議員
(成羽中学校)

【答弁】 近藤市長

成羽の愛宕大花火をもっと賑やかに、元気にしていきたいというご質問だと思います。

外国人観光客や女性客の方に注目をしてみよう、ということですが、現在、情報発信については、フェイスブックやツイッターなどお知らせはしていますが、より親しみをもちて楽しんでもらえるように、実行委員会や地元の方の含め、いろいろな組織でしっかり考え、まず自分たちが一緒になって取り組み、その良さを学校ぐるみや町内会など、地域・コミュニティ単位で発信していくことも1つの方法であると思います。

今年、日帰りのバスツアーが旅行会社2社により実施されました。今後も、他の旅行会社にアピールして、花火を見に来てもらい、吹屋のゲストハウスや市内の旅館・ホテルに宿泊していただくなど、いろいろなものを組み合わせる提案もしていきたいと思っています。

成羽の愛宕大花火については、これから後世に伝えていくべき伝統行事の1つとして、しっかり守っていくことと思っています。